

「考えよう薬物問題」

依存症者家族がフォーラム

全国薬物依存症者家族連合会(林隆雄理事長)は6日、都内で、「今こそ考えよう!薬物問題」と題し、第6回フォーラムを開き、全国から200人を超す人たちが集まりました。

フォーラムでは、主催者側が「薬物依存症者を主として犯罪者として扱うのではなく、病気との認識で治療回復への支援をすることこそが必要」と強調。医療・福祉・教育・司法などの総合的な支援体制の確立を訴えました。

経験交流では、群馬県の女性が、少年時代はスポーツ好きだった

息子が薬物を覚え、サラ金からの借金に手を出し、恐喝などの犯罪に手をそめていった経過を報告。「家族会と出会い、やっと息子が回復した」と話しました。福島県の女性は、シンナー中毒の息子の暴力に二十数年間、耐えてきたことや、家族会のアドバイスで、苦しみから抜け出したことなどを話しました。

元薬物依存症者の男性は、薬物使用で幻聴や妄想がひどくなり、自殺しようとした体験を報告。沖縄の民間回復施設の関係者に出会い、根気よく治療する中で回復した喜びを話しました。